

リフォーム・DIY業界との連携強化

長期使用住宅部材標準化推進協議会

CJK 30品目超に拡大

基盤構築から普及促進へ

大手住宅企業や住宅部品メーカーなどで組織する長期使用住宅部材標準化推進協議会(会長 平田俊次・ミサワホーム専務執行役員、略称「長住協」)は、DIYなどのリフォーム関連業界との連携を強める。協議会活動が7年目に入り、標準化・共通化を実施した部材(CJK部材)が30品目を超え、CJKマーク入りの建材が流通し始めたことなどを受け、活動の幅を基盤構築や標準化推進から、関連業界や消費者への普及・PR促進活動に広げた。「住宅企業は在庫管理コストが軽減。部品企業は品番集約による製造コスト削減が可能。消費者は、対応部品を安く簡単に入手できるようになり、住宅のメンテナンスがしやすくなる」と(同協議会)と、CJK部材のメリットを解説。将来的にはCJKマーク表示品目を100品目、会員企業数200社(10日現在57社)を目指す。

同協議会は、アルミサッシの戸車や粘土瓦(F型)を策定することで、型残がわりなどのメンテナンス用の交換部品の



標準化部材に表示されるCJKマーク

確保、安定供給・調達にちなげ、住宅の長寿命化を推進する活動を続けている。標準化する部材は、住宅企業や部品メーカー、関連業界団体、消費者などから

しながら、サイディング部材やガスコンロ、網戸用ネットなどの標準化を進めている。15年度末までに登録品目数を50品目に拡大、将来的にはCJK表示品目数100品目を指している。

同協議会は、「交換部品の標準化は仕入れる住宅会社、製造する部品メーカー、使用する消費者のそれぞれにメリットがある」と強調する。

7割の品目数削減に11年に標準化したキッチン用台付シンクル湯水混合水栓の場合、キッチン用水栓と止水栓との関係に制約がなかったため、給水・給湯配管の長さが多様化。そのため設

「JAPAN DIY HOME CENTER SHOW 2014」に出展し、来場者に「J」に出席する。一般社団法人日本ドウ・イット・ユアセルフ協会(東京都千代田区、荏村伊知郎会長)のブースで、CJK部材やCJKマーク、同協議会活動の認知向上を図る計画とした。

に両者は、標準化による一定の効果が得られたため、シャワーホースや浄水器などについても標準化の検討を開始した。

同協議会は今年度から、部品の標準化策定と平行して、将来的なCJK部材の流通促進を見据えたDIY業界やリフォーム業界との連携検討を進める。協議会発足から7年目となり、基盤構築や標準化の推進に注力していた活動は、普及促進・普及拡大へと移行し始めた。

まずは、8月28日から30日までの3日間、千葉県・幕張の幕張メッセ国際展示場で開催される